

令和2年度 有明海・八代海再生特別委員会管内視察の概要

■日 時 令和2年11月18日（水）

■場 所 ①塩屋漁港：土砂処分場（熊本市西区河内町）
②熊本港：土砂処分場（熊本市西区新港）
③網田漁業協同組合（宇土市長浜）

■視察者 有明海・八代海再生特別委員会委員（16人）
内野幸喜（委員長）、増永慎一郎（副委員長）、吉永和世、井手順雄、
小早川宗弘、坂田孝志、磯田 毅、楠本千秋、西山宗孝、山本伸裕、
竹崎和虎、西村尚武、本田雄三、荒川知章、坂梨剛昭、前田敬介

■視察趣旨 県内の土砂処分場（2か所）及び網田漁業協同組合のアサリ増殖等の
取組みを調査し、今後の委員会審議に役立てるために実施。

■視察の概要

①塩屋漁港（土砂処分場）

全体事業費40億円、埋立面積約11ha、処分容量46万 m^3 の土砂処分場。平成26年から浚渫土砂を受け入れており、自然沈下量を考慮すると、今後の受入可能容量は約11万 m^3 であり、あと数年で満杯になる見通しのため、埋立容量の増加対策を進めていくとの説明があった。



②熊本港（土砂処分場）

全体事業費約493億円、処分容量966万 m^3 の土砂処分場で、港湾の整備や維持により発生する浚渫土砂を受け入れているが、今後の受入可能容量は約58万 m^3 で、今後約7年で満杯になる見通しのため、埋立容量の増加対策を進めていくとの説明があった。



③網田漁業協同組合（アサリ増殖の取組み）

網田漁協のアサリ漁獲量は、平成21年のホトトギスガイ大量発生や、平成24年の九州北部豪雨による浮泥の堆積などの影響により、厳しい状況が続いたため、アサリ研究部会が中心となり、平成24年から網袋を用いたアサリ増殖の取組みを開始し、平成26年以降、年間1,000袋以上の網袋を設置した。平成29年以降は約8,000袋までに増加し、この取組み等により網田漁協の漁獲量は、平成29年は22トン、平成30年は68トンと回復し、平成30年には約30年ぶりに観光潮干狩りが再開されるまでになったとの説明があった。

